

プラザ運営形態の将来展望

1年目 (15年度)	2年目 (16年度)	3年目 (17年度)	4年目 (18年度)	5年目 (19年度)
------------	------------	------------	------------	------------

運営管理の考え方
直営からNPO委託へ
 (市民との協働)

直 営
 一定の方向を見出し軌道に乗せるまでには試行錯誤がある。市民団体の意見を取り入れながら形をつくる。市職員が、将来的に環境プラザの業務に移行してもよい事業をもって、プラザに移転して業務を行う。受け皿となるNPOを育成した後、委託する。同時にプラザ市職員は不要となる(定数削減)。

NPOに運営委託する。

NPOの立上げ・市民参加
環境プラザ運営に係る懇談会
ボランティアの育成

環境プラザ運営に係る懇談会を設置する(構成員は市内で活動する環境NPO代表者など)
 事業運営にあたっての意見をもらう。
 事業参加していただく。
 受け皿となるNPOの組織化の在りようについて意見をもらう。

ボランティアの育成
 対象者は懇談会構成委員推薦者と公募
 1月1回程度の研修を実施
 プラザ事業にも活動参加してもらう

NPO立上げ

環境プラザ事業
 全庁的な既存事業・情報の収集
 提供情報の選別
 既存事業をベースとした初年度事業の組立て
 検討会議定書等の段階的取入れ

既存事業の体系化 事業の直接実施 関連他部署事業の紹介	同 左	同 左	同 左	同 左
新規事業 プラザ直営事業 既存NPO協力事業	同 左 拡 充	同 左 拡 充	同 左 拡 充	同 左 拡 充